

## 講演者プロフィール

### ジュド・ポアリエ博士 (Dr. Judes Poirier)

マギル大学 教授 (医学及び精神医学)  
ダグラス研究所 アルツハイマー病予防研究センター副所長  
ダグラス研究所 分子神経生物学ユニット ユニット長

アルツハイマー病およびパーキンソン病の科学的研究の進展に、基本部分で貢献している。正常および損傷した脳、およびアルツハイマー病の遺伝学におけるアポリポ蛋白Eの役割に関する研究は、国際的に知られている。また、Alzheimer Group USA (米国政府の諮問組織) やカナダ政府と米国環境保護庁 (EPA) 共通の諮問機関であるHealth Protection Branchなど多数の科学諮問委員会のメンバーを務める。近年は、2010年度のGenesis Prize賞など、権威ある国際的な科学賞を受賞している。

### ダイアン・ベンフォード博士 (Dr. Diane Benford)

英国食品基準庁 化学物質リスク評価部 部長

化学物質リスク評価部は、食品中のあらゆる化学物質が引き起こし得る有害な健康影響に対して責任を負っているが、その中の汚染物質、食品添加物および自然毒を主に担当している。当部の助言は科学的リスク評価に基づいており、消費者に対する食品基準庁の政策と彼らへの助言が根拠になっている。また、食品基準庁の「食品、消費者向け製品および環境中の化学物質の毒性委員会」の科学事務官でもある。私的な立場としては、2005年から、欧州食品安全機関 (EFSA) のフードチェーンにおける汚染物質に関する科学パネル (CONTAM) のメンバーを務めており、最近、このパネルの委員長に選出された。2001年以来、FAO/WHO 合同食品添加物専門家会議 (JECFA) に参加している。2006年と2011年にはJECFAでの、また2008年にはEFSAでのアルミニウムの評価に携わっている。

### 江馬 眞 (Dr. Makoto Ema)

食品安全委員会 添加物専門調査会専門委員、肥料・飼料専門調査会専門委員  
独立行政法人産業技術総合研究所安全科学研究部門 招聘研究員

獣医師、農学博士。国立医薬品食品衛生研究所勤務当時から化学物質の安全性評価に携わってきた。主にフタル酸エステル、有機スズ化合物を用いて生殖発生毒性について研究を行ってきた。化学物質の新生児投与実験に関する論文では米国毒性学会リスク評価部会2007年最優秀論文賞を受賞し、また、出生前にサリドマイドを投与したサル胚の遺伝子解析の知見に関する論文ではReproductive Toxicology誌2010年最優秀論文賞を受賞した。食品安全委員会発足時から農薬専門調査会、添加物専門調査会及び動物薬専門調査会において専門家として安全性評価に協力してきた。

## 入野 康宏 (Dr. Yasuhiro Irino)

神戸大学大学院医学研究科 質量分析総合センター 助教

生命科学博士。博士号を修得後、国立精神・神経センター神経研究所の研究者を経て、神戸大学大学院医学研究科の助教となる。脂質の研究に従事してきたが、2011年から質量分析計を用いた研究を開始した。現在は、生体内に含まれる代謝物を網羅的に分析することで、疾患の原因物質の発見や新規治療法の開発を目指す研究に携わっている。

## <コーディネーター> 広瀬 明彦 (Dr. Akihiko Hirose)

食品安全委員会 化学物質・汚染物質専門調査会専門委員、器具・容器包装専門調査会専門委員

国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 総合評価研究室長

医学博士。産業用化学物質や飲料水/食品等の汚染化学物質の有害性及びリスク評価を専門としている。主要業務としては、化審法における化学物質審査における化学物質安全対策部会化学物質調査会の専門委員とOECD化学物質共同評価プログラムにおけるCoCAM会議の日本政府専門家として活動している。食品安全委員会においては化学物質・汚染物質専門調査会汚染物質部会専門委員と容器包装専門調査会の専門委員、厚生労働省では水質基準逐次改正検討会と食品衛生分科会器具・容器包装部会の委員も勤めている。現在の主要な研究テーマは、化学物質リスク評価における構造活性相関手法の開発、およびナノマテリアルの健康影響評価手法の開発、リスクアセスメントにおける用量反応評価手法の開発などである。